

令和元年10月10日

魚沼市議会議長 遠藤 徳 一 様

産業建設委員会

委員長 佐藤 敏 雄

産業建設委員会調査報告書

本委員会は、所管事務について下記のとおり調査したので、魚沼市議会会議規則第110条の規定により報告します。

記

- 1 調査事件名 (1) 猛暑に伴う魚沼市産米の状況について
(2) 豚コレラについて
(3) その他

- 2 調査の経過 10月10日に委員会を開催し、上記事件について調査を行った。
猛暑に伴う魚沼市産米の状況について及び豚コレラについて、執行部から報告を受け質疑を行った。
その他で魚沼市有機センターの臭気対策について質疑を行った。

産業建設委員会会議録

1 調査事件

(1) 猛暑に伴う魚沼市産米の状況について

(2) 豚コレラについて

(3) その他

2 日 時 令和元年10月10日 午後1時30分

3 場 所 広神庁舎 301会議室

4 出席委員 星 直樹、浅井宏昭、富永三千敏、佐藤敏雄、岡部計夫、(遠藤徳一議長)

5 欠席委員 大屋角政

6 説明員 小幡産業経済部長、富永農政課長

7 書 記 櫻井議会事務局長、今井主任

8 経 過

開 会 (13:30)

佐藤委員長 定足数に達していますので、ただいまから産業建設委員会を開会します。大屋委員から欠席の届出がありましたので報告いたします。

(1) 猛暑に伴う魚沼市産米の状況について

佐藤委員長 日程第1、猛暑に伴う魚沼市産米の状況についてを議題とします。資料が配付されていますので説明を求めます。

小幡産業経済部長 猛暑に伴う魚沼市産米の状況について報告させていただきます。先日9月20日開催の産業建設委員会において、この件につきまして質疑があり、情報収集に努め、対応を検討すると答弁させていただきました。それからまだ20日しか経過しておりませんので、大きな動きはありませんが、きょうまでの魚沼市の状況と新潟県及び近隣自治体の状況について、配付資料により説明させていただきます。また、おととい8日に新潟県農林水産部経営普及課から、令和元年の夏季の高温により被害を受けた農業者に対して資金繰りを支援する融資制度を創設という内容の報道発表がありましたので、あわせて説明させていただきます。詳細につきましては富永農政課長から説明させますのでよろしくをお願いします。

富永農政課長 (資料「猛暑に伴う魚沼米の状況について」により説明)

佐藤委員長　これから質疑を行います。ただいまの説明について質疑等はありませんか。

富永委員　支援策のところですが、新潟県農林水産業振興資金とJAで貸し付けを企画しているようですが、それぞれの融資条件はわかりますか。

富永農政課長　JAにつきましては特に規定はないと聞いております。ただ利率が100万円未満、年利0.5%というようなことで聞いております。

岡部委員　支援策等の状況ということで、検討中というところも多いですけども、魚沼市もまだ全体を把握していないと思うので、把握して魚沼市としての方針が出せるのはいつごろになる想定ですか。

富永農政課長　10月末くらいには、ある程度全部の実績が出てくると思われます。ただ、近隣の市町村の動きであるとか、県の動向等々を勘案しながら調整を進めてまいりたいと思いますけれども、補正予算に間に合うような形で調整させていただければと考えております。

岡部委員　今現在、JAの対策資金等の申し込み状況がどれくらい出ているのか把握していますか。

富永農政課長　JAに確認したところ、相談は数件来ているらしいですが、正式な申し込みはまだ来ていないと伺っております。

浅井委員　私も大規模な農家の方に聞き取りをしたところ、山間部のほうの農家の方は平年並みのコシヒカリの取れ方だというような話をされていたんですけども、堀之内の農家の方に聞きましたら、やはりコシヒカリはだいぶ等級が悪くて、新之助の枠を広げてもらって、多くの方が新之助の取り扱いができるようにしてもらわないと、今後の農家としての生計が厳しくなってしまうというような話をされていたんですけども、その辺について県と協議をしていくというようなことは考えていますか。

富永農政課長　新之助については、ある程度植えるにあたって条件がございます。GAP認定を受けたものでなければできないというような条件がありますので、そのGAP管理ができる生産者に限定されるという部分と、それから気象条件の中で晩生というような品種になりますので、その作付時期が遅くなることから、逆に刈り取りが間に合わないという影響も出てくるというような話も伺っているところであります。今後JA、県等と協議しながら、その辺についてはまた調整させていただければと考えております。

星委員　今後の検討課題になるとは思いますが、融資というのは金利が安くてもいつかは返さなければいけないものだと思いますが、魚沼市として補助的なもの、返さなくてもいいようなものについて今後考えは持っていますか。

小幡産業経済部長　詳しい内容についてはこれからの課題になりますし、近隣の自治体の動向を見ながらということになりますけども、今ほど発言があったような補助的なものはなかなか難しいものかなと考えておりますので、やはり融資の部分、金利で優遇するというような考え方でおります。

富永委員　新之助は晩生品種ということですし、コシヒカリBLになって、一般に生産したのは平成17年だと思いますが、それはいもち病に強いコシヒカりに品種改良をしたということですが、私が以前一般質問したことがあります、高温に強いコシヒカリの新しい品種、あるいは新之助のように晩生型の品種、それを当時質問したところ、県では開発中だというような答弁があったんですけど、その内容や進行状況はわかりますか。

富永農政課長 大変申しわけありませんが、その関係の情報については入ってきておりません。

富永委員 ぜひ市からも、高温に対抗するような新しい品種の開発について提案してもらいたいと思います。

岡部委員 やっぱり今一番困っている農家に、決まったら早めに情報を周知してやるかというところが大事だと思います。JAとも協力しながらやらなきゃいけないと思いますけども、その辺はどのように考えていますか。

富永農政課長 当然JAの取り扱い農家の部分も大きくございますので、JAにも周知をさせていただきますし、近隣の米卸業者にも周知、また市報、ホームページ等での周知というような形を考えております。

岡部委員 行政はインターネットとかよく使うんだけど、だけどやっぱり徹底するためには紙というか、そういうことで言葉とか資料とかそういったことでしないと周知不足になるかと思うので、その辺のフォローを少し考えてもらいたいと思いますがいかがですか。

富永農政課長 JAで定期的に文書配布している部分もありますので、そういった部分を通じた中で、全戸配布するようなことも検討したいと思います。

富永委員 資料の1番、(1)のところにも本市が10%くらいということと、昨年の平成30年産で、県全体で約80%、本市では73%ということで、我々の地域のほうが低くなっているんですけども、例年このような感じなのでしょうか。

富永農政課長 魚沼市としましては、県やJAと連携しながら一等米比率を上げていこうという動きはありますけども、大体例年県全体よりちょっと低めの状況です。ただ、年度によって気象条件も異なりますので、若干の差は出てこようかというように感じています。

富永委員 その辺の原因とか対策は考えていらっしゃいますか。

富永農政課長 今年度の状況を受けまして、県やJAと連携しながら原因究明を図っていきたいという話を聞いておりますし、土壌分析等々も視野に入れた中で検討していききたいという話は聞いております。

佐藤委員長 ほかに質疑はありませんか。(なし) 質疑はありませんけれども、非常に過去にない被害が大きいものですので、10月末ということですが、それまでに各種資料を集めて、農家が再生産できるような対応で検討を重ねていきたいと思います。本件については引き続き調査するというご異議ございませんか。(異議なし) そのように決定いたしました。

(2) 豚コレラについて

佐藤委員長 日程2、豚コレラについてを議題といたします。資料が配付されていますので説明を求めます。

小幡産業経済部長 続きまして、豚コレラについて報告させていただきます。先日10月3日開催の令和元年魚沼市議会定例会最終日に、行政報告において市長より豚コレラ緊急対策についてということで報告させていただきました。その中で、事業者の負担軽減を図るため市としても補助する方向で調整を進めており、補正予算で対応させていただきたいと考えておりますと報告させていただきました。これにつきましてもまだ2週間しか経過し

ておりませんので、大きな動きはありませんが、きょうまでの魚沼市の状況と新潟県及び近隣自治体の状況について配付資料により説明させていただきます。詳細につきましては富永農政課長から説明させますので、よろしくお願ひします。

富永農政課長 (資料「豚コレラの状況について」により説明)

佐藤委員長 これから質疑を行います。ただいまの説明について質疑等はありませんか。

浅井委員 魚沼市ではまだ豚コレラは発生していませんが、これが発生した場合に関連会社や飲食店を含めてどれくらいの損害が出るかというのが、もしわかれば教えてください。

富永農政課長 申しわけありませんが、そこまでの試算はしてありません。

浅井委員 それでは、疫病が発生して感染した家畜は殺処分ということになるとは思いますが、殺処分の後は埋めるということになるとは思います。その埋める予定地というのはあるんでしょうか。

富永農政課長 発生した場合につきましては、基本的には各養豚農家のほうで自分の敷地内に埋めるということで、一応県から指導がありまして、取りまとめはさせていただいております。

浅井委員 豚コレラの媒介として、野生のイノシシが挙げられると思いますが、ここ数年で野生のイノシシが爆発的にふえていまして、入広瀬でもイノシシの発生がありました。田んぼの中でイノシシがごろごろしたような跡が見られていますが、ふえているイノシシに対しての対策というのは何かありますか。

富永農政課長 ご指摘のとおり今年度についてはイノシシの被害について各地でお聞きしております。そういった情報がありますと、私どものほうで鳥獣被害防止対策協議会としまして、各方面実施隊のほうにわなの設置をお願いしております。わなを設置して、かかったものについては殺処分というような形になりますけれども、今後被害が広がってくるようであれば電気柵の設置等も検討していく必要があるのかなというところがございます。

浅井委員 ことしに入ってからでいいんですけれども、イノシシのわなにかかった数がわかれば教えていただけますか。

富永農政課長 わなを仕掛けて、かかったのは今のところありません。

岡部委員 発生状況ということで、1府8県ということで新潟県は入っていないんですけれども、近隣の状況を見ると十日町市や南魚沼市、津南町も起きていないだけけれども、市としての対応を国や県に倣って、市としてどうするかということ打ち出しているんですけれども、魚沼市としても何らかの形で出さなきゃいけない。もしそうなったときに養豚業者のほうも心配している。その辺は今考えているのかどうか、いつごろになったらそれが表に出るのか、その辺聞かせてください。

小幡産業経済部長 先ほど説明させていただきましたが、市としても補助する方向で調整を進めているということで、今事業者やJAと調整を図っているところですので、いつまでというような期限は切れませんが、事業者の意向を確認する中で検討していきたいと考えております。

岡部委員 今のところ事業者はどのように受け止めているんですか。要望とか、事業者としてのそういうのがあればお聞かせください。

小幡産業経済部長 規模の大小がありますので、柵の設置まで高額な投資ができないという

考え方を持っておられるところもあります。電気柵で対応したいというようなお話もいただいていますので、その辺含めて調整を図っていきたいと考えております。

佐藤委員長 ほかに質疑はありませんか。(なし) これで質疑を終結いたします。本件については引き続き調査することでご異議ございませんか。(異議なし) そのように決定いたしました。

(3) その他

佐藤委員長 日程3、その他を議題といたします。委員の皆さんから何かありませんか。

富永委員 堀之内の有機センターのことですが、数年前から労働環境の改善や臭気対策ということで、当時いくつか検討した中で、こうやっていこうということだったらしいんですが、国だか県の基準に合致しなくなったということで、それができなくなったということなんですけど、その後対策をどのように考えているか、経緯も含めてお話をお願いできますか。

富永農政課長 有機センターの関係については、労働環境であるとか、周囲への臭気対策という形の中で、臭気を防止するための方向で検討しておりまして、県や関係機関等と協議を進めてまいりました。昨年度、繰越予算の中で設計を行ってきたわけですが、今までは下から空気を押し上げて、蒸気のダクトから吸い込むという式にしていたんですけども、国の機関であります農研機構から、実際にメーカーと酪農家で共同研究を進めた、実際に下から吸い込んで、それを薄めるような形の中で臭気を抑えていくという方向の提案をいただいたところがございます。それに基づいて昨年度実施設計を始めたところがございますけれども、実施設計においてアンモニアを中和することにつきまして、農研機構から提案いただいたのが硫酸等々というような形でありました。ただ、硫酸につきましてはコストがかかること、それから使用後の処分に難点があるというようなことから、業者から提案をいただいたのが、あまり影響の少ない次亜塩素酸水で中和をしたらどうかという提案をいただきました。それをもとに県との協議を進めておりましたけれども、実際に次亜塩素酸につきましては、様々なところで臭気の対策という部分では出ている話題ではございますけれども、大規模なものに対して使った前例がないということから、県からその先の承認がなかなか得られないような状況であります。臭気の構造、下から吸い込む式につきましては県も承諾をしておりますけれども、中和の部分について県と今協議を進めております。それに代わる部分として、富山県の試験場で実例のある、空気をそこに押し込めて空気中で希釈するというような方法でどうかという形の中で今県と調整を進めているところがございます。その結果を受けて、最終的な方向性といった部分を出していきたいなと考えているところがございます。

富永委員 その下部吸引方式は那須塩原におとし視察に行ってきましたよね。そこは今ほどの説明のように硫酸の、吸引通気っていったか、それで処理するということがあったんですけども、それを次亜塩素酸で処理しようということですけども、その方向やら、空気です薄めるという、要は大量の空気の中に臭気の濃いものを入れて薄めて、どこか高い煙突なりで上空に出すなりというようなことが必要だと思うんですけど、その辺のところをよく研究していただいて、また当初計画したのができなくなったわけですので、しっかりと研究

してもらいたいのと、委員会としても取り上げていただいて、調査するように委員長にお願いしたいと思います。

富永農政課長　今後も継続して、県や関係機関等と対策に向けて検討を進めてまいりたいと思います。一応臭気のほうも空気で希釈して、それを現存のロックウールのところにくっつけてするという方向で今検討を進めているところでございます。

佐藤委員長　ほかにいかがでしょうか（なし）それでは本件についても引き続き調査することで異議ございませんか。（異議なし）そのように決定いたしました。その他でほかにありませんか。（なし）執行部からはいかがですか。（なし）それでは私から最後をお願いですけれども、行政視察が決定しておりますが、質問事項があす10月11日が締め切りと。今確認いたしましたらまだ2名しか質問が出ていないということですが、あすまでに出してない方については勉強してひとつ視察先へ取りまとめをしたいと思いますのでよろしく願いをいたします。本日の会議録の作成については委員長に一任願います。本日の産業建設委員会はこれにて閉会いたします。

閉　　会（14：07）